



2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 古前小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	実施対象学年 1年～6年 計97名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名（総合的な学習、学活・道徳） ② 行事名（オリパラ講演会） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ 二條実穂選手の話から、障害を持って前向きに努力する姿や生き方を学び、自分も目標に向かって、強い意志を持ち、粘り強くやり抜こうとする心情を養う。 ○ スポーツへの興味関心の向上と、主体的に運動に取り組もうとする態度を育む。 ○ 車いすを使って生活する苦勞や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。
5 取組内容	<p>「事前学習」 東京オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高めるために、オリパラコーナーを設置した。新聞などから記事を集めたり、オリンピック・パラリンピック出場有力選手のクイズを掲示したりした。</p> <p>7月23日に配信された国立競技場からの池江選手のメッセージも児童に紹介し、アスリートの思いについて考えた。</p>   <p>「オリパラ講演会」～二條実穂選手との交流会～(12月15日) リオパラリンピック出場の二條実穂選手を学校にお招きし、二條選手のこれまでの体験をもとにした話をしていただいた。</p> <p>① 二條選手のお話 まず、パラリンピックについての紹介、車いすテニスのプレ</p>

一動画を鑑賞した。その後、二條選手の子どもの頃の夢や、夢をかなえた後に大きな事故にあったこと、車いすテニスとの出会いから現在に至るまでの話をしていただいた。話の中で、二條選手から子どもたちに、「夢を叶えるために大切にしてほしいこと」が伝えられた。



② 競技用車いすについて

車いすと競技用の車いすの違いについて、クイズ形式で出題した。実物を子どもたちが見たり、触れたりすることで、車輪の付き方やブレーキの有無などの違いに気づいた。

③ 競技用車いす体験

二條選手が競技用車いすを自在に操るデモンストレーションを見た後、3～6年が競技用車いすの体験をした。まっすぐに進むことは意外に難しく、試行錯誤をしながら車いすを操作していた。



④ 車いすテニス体験

6年生の代表が車いすテニスの体験をした。ラケットを持って車いすを操作するのはとても難しく、二條選手たち車いすテニスの選手がいかに凄いかを実感したようだ。



⑤ お礼の言葉

最後に子どもがお礼を述べ、二條選手から記念の色紙をいただいた。

「事後学習」

① 二條選手から学んだことを感想文に

学級に戻り、二條選手からお話を思い出し、感想文を書いた。二條選手の熱い思いが子どもたちに届いたようであった。

② 二條選手から学んだことを持久走記録会へ

オリパラ講演会の後、校内持久走記録会の取組につないでいった。児童会で「笑顔でチャレンジ古前小」というキャッチフレーズをつくり、練習のときから、例年以上に熱心に取り組む姿が見られた。

6 主な成果

事後学習で書いた児童の感想には次のようなものがあった。

- 二條選手の教えてくれた事を大切にしたい。特に、三番目の「無理と言わない」を一番守ろうと思った。
- 今日学んだことは「あきらめない」ということです。私はいつも「無理」と言ってしまうので、あまり言わないようにしようと思う。
- 二條選手から学んだ大切なことを生かして生活したいと思った。プラスの言葉をもらったり、言ったりするのが大切だと気がついた。

	<p>○ 車いすに乗ってみて、動かすのが大変なのがわかった。事故にあってから、パラリンピックの選手になるには、たいへんな努力があったと思う。</p> <p>○ パラリンピックのテニスは楽しい。少し、車いすやテニスに興味がわきました。いつかテニスをやってみたい。</p> <p>○ 車いすの体験して、車いすでの生活は、大変なことがたくさんあることがわかった。障害のある人が困っているのを見かけたら、優しく声をかけたい。</p> <p>これらの感想から、次のような成果が考えられる。</p> <p>二條選手の話から、夢をもち、あきらめないことの大切さを感じる児童が多くいた。児童の中には、今もっている夢をあきらめずにがんばろうという気持ちをもった児童も多い。児童自身の生き方を見つめ直すきっかけになったのではないか。</p> <p>児童は、二條さんの話を聞き、実際に車いすに乗ってみることで、車いすを使って生活する苦労を知ることができた。また、障害をもった方に対する考え方や自身の行動について考える機会になり、障害をもった方に出会ったときに自分にできることをしようという気持ちをもつことができた。</p> <p>スポーツやオリンピックパラリンピックに対する興味付けになった。特に、パラリンピックに関しては、オリンピックほど触れる機会がなかった児童だが、車いすテニスに興味をもち、見てみたい、やってみたいという気持ちをもったようだ。</p> <p>二條選手の話は、その後の行事「持久走記録会」の取組にもつながった。二條選手の言葉通りに、児童はあきらめずに最後まで走りぬくことができた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校のため、全学年を対象に講演会を行った。二條選手には、低学年にも分かるようにお話をさせていただくようお願いした。動画視聴や体験もあり、低学年も楽しく参加できた。 ・ 車いす体験に関しては、体力的に低学年には難しいため、担任教師が代わりに体験した。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打合せが当日になったため、急な変更点について、担任に情報共有するのが困難であった。 ・ 車いす体験は、人数の多い学校では高学年だけに絞るなどの工夫が必要だと思うが、二條選手のお話は、是非、全学年の児童に聞いてもらえるように計画したい。 ・ 特定の障害やスポーツへの興味から、広くオリンピックやパラリンピック競技への興味・関心へとつないでいくことが必要。 ・ 車いす体験のような体験学習を、日頃の授業の中で仕組み、全学年の児童の興味関心をもつようにしていく。
9来年度以降の実施予定	<p>引き続き、オリンピック・パラリンピックへ向け、スポーツへの興味を持続させるために、何らかのスポーツの体験や、授業実践をしていきたい。なかでも、全校児童による「ランニングタイム」や「なわとびタイム」のような、日常的にスポーツに触れる機会を多くしていきたい。</p>